

ごあいさつ

このたびは追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアムにご来場いただき、誠にありがとうございます。

2018年度に刊行された「野の春」をもって、宮本輝が37年もの間、営々と書き続けた「流転の海」シリーズが、全九巻で完結しました。自らの父をモデルにしたこの自伝的シリーズの完結は、一人の作家の偉業であるとともに、日本文学の高い到達点として、各界からさまざまな形で顕彰されています。例えばつい最近では、宮本輝が第60回毎日芸術賞を受賞しました。「毎日新聞」の「毎日芸術賞の人々1」(2019年1月7日)には、宮本輝の「大仕事を終えた気持ちです。受賞は書き上げたことへの『ご苦労さん』という、ご褒美だと受け止めます」という喜びの言葉が紹介されています。

一昨年と昨年には、富山(高志の国文学館)と姫路(姫路文学館)で、特別展「宮本輝 人間のあたたかさと、生きる勇気と。」が開催されました。また、昨年11月5日には、「流転の海」シリーズの出版記念パーティーが、帝国ホテル東京で開催されました。

我が宮本輝ミュージアムでも、この大作の完成を祝い、これを記念する展示を行うことにしました。

今回の企画展に際しまして、多くの方々のご協力をいただきました。関係各位の多大なるご協力に感謝し、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

宮本輝ミュージアム

プログラムディレクター 真銅正宏
(追手門学院大学国際教養学部教授)